



Hiroshima City University Language Center

広島市立大学語学センター
Newsletter No.46 (2013.5.31)



昨年度（平成 24 年度）から情報科学部 1、2 年生の必修科目「e ラーニング英語」の授業が、語学センター教室で行われています。1 回の授業に約 120 名の受講生がいるため、403A・B、または 403A・404 の 2 教室を同時に使い、国際学部の渡辺智恵先生を中心に情報科学研究科の弘中哲夫先生、齋藤充行先生、岩垣剛先生、辻勝弘先生が担当されています。そこで渡辺先生に、「e ラーニング英語」が時間割に組み込まれるまでの経緯と実施状況、その成果についてご報告いただきました。

目次：

「e ラーニング英語」、スタートから 1 年

国際学部 渡辺智恵先生・・・・・・・・・・1

ミニコラム：国際学部 西田竜也先生・・・・・・・・・・2

日本文化のこぼれによる共有財産録『国語 I』

名誉教授・芸術資料館もと館長

大井健地先生・・・・・・・・・・3

アラビア語オリンピック スピーチ部門優勝

国際学部 西本淳一郎さん・・・・・・・・・・4

雑誌貸し出し冊数変更のお知らせ・・・・・・・・・・4

「e ラーニング英語」、スタートから 1 年

国際学部教授 渡辺 智恵

昨年（平成 24 年度）4 月、それまで情報科学部 1、2 年生対象の必修科目であった「CALL 英語集中」に代わり、「e ラーニング英語」という新たな英語科目が開設されました。どちらも同じ英語 e ラーニングシステムを利用して、リーディング、リスニング、文法、ボキャブラリを集中的に学習する科目なのですが、なぜ新たに「e ラーニング英語」という別科目が開設されることになったのでしょうか？

「CALL 英語集中」は、平成 14 年度に国際学部 1 年生対象の必修科目として初めて開設され、その後平成 19 年度に実施された英語カリキュラムの改編により、国際、情報、芸術のすべての学部の 1 年生全員と国際及び情報の 2 年生全員が必修科目として履修するようになった科目です。「CALL 英語集中」の大きな特徴の一つは、時間割の中に週 1 回の授業時間が設定されていない点で、履修者には指定された期間中、自分の都合のよい任意の時間に、学内や自宅のパソコンを利用し、ネットを通じて配信される教材を基本的に毎日自学自習することが求められます。そうすることにより、週 1 回の授業では足りない絶対的な学習時間と学習量を増やし、英語力を伸ばすという狙いが

ありました。

e ラーニングを利用した学習の最大のメリットは、時間と場所を選ばず、学習者が自分の好きな時に各自の



「e ラーニング英語」授業風景。403A 教室（写真上）と 403B 教室（写真下）で同時に実施。写真下中央は辻先生。

ペースで自由に学習に取り組むことができる点です。しかし、この最大のメリットは最大のデメリットにもなりかねません。「いつでもどこでもできる」ということは、「今やらなくても後でできる」、「今日やらなくても明日やればよい」という気持ちにつながり、結局は期限ギリギリになってやり始め、時間に追われない加減な学習になってしまう場合もよく見受けられます。特に情報科学部の場合、もともと授業の空きコマが少なく、また実験などに時間が取られることもあり、多くの学生にとって、時間割の外で自主的かつ継続的に学習時間を確保することが難しかったようです。そこで、情報科学部生については、各学生が任意の時間に学習するやり方を変更し、「e ラーニング英語」として時間割に組み込むこと

になりました。また、「e ラーニング英語」では 1 ケ月ごとに復習テストが実施され、「一つ一つの教材を丁寧に学習」することがより求められるようになりました。

(P2 へ続く→)

ミニコラム 外国語に想う【41】

「注文できなかったピザ」

国際学部 准教授
西田 竜也マサチューセッツ州
ケープ・コッドにて

1993年8月某日：「ツー、ツー、ツー。」遂に電話を切られた。これで、今夜は夕食抜きだ。朝早くロス・アンゼルスを出てから、食事をする暇もなく、東海岸のフィラデルフィア近郊にある留学先の大学にようやく着いたのが夜10時。大学のカフェテリアは既に閉まっている。空港から大学まで案内してくれた学生がくれたチラシを頼りに、ピザ屋に電話した。しかし、自分の居場所すら相手に伝えることができずに、電話を切られた。「Sorry. I can't understand what you are saying.」という言葉が、空腹だったせいか、妙に残酷に聞こえた。とても惨めな気分になった。ピザすら注文できないというのが自分の英語の実力だと思い知らされた留学初日である。

1993年10月某日：留学生活が始まって1か月あまり。全ての授業についていくことを断念。自分の今の英語の実力では当然と言えば当然である。ここはSwarthmore College。全米で常に3本の指に入るガリ勉大学。日本人は二人。英語ができないのは自分一人。全米トップクラスのガリ勉連中ととともに競争できるはずがない。しかし、落ちこぼれるのは負けたみたいで悔しい。よし、一科目（国際政治）だけは負けずに勝負しよう。あとは捨てよう。

1993年11月某日：ディスカッション形式の授業で自分の意見を英語で伝えるのは難しい。大きな挑戦である。しかし、国際政治の授業だけは毎回発言すると決め、実行してきた。太平洋戦争や日米貿易戦争については、一日本人としての見方を、下手な英語で伝えてきた。おそらく伝わっていないと思っていたが、今日、先生と学生から「Tatsuyaの言っていることは、他の学生とは違って面白い。授業に貢献してくれている」と言われた。多分にリップ・サービスであろうが、仲間として認めてもらったようで嬉しかった。多種多様な人間が集まる社会では、まず自分がどう思っているか、なぜそう思っているかを伝えなければ始まらない。自分の意見を説得力ある形で伝えれば、たとえ英語が下手でも公正に評価してくれる。アメリカ社会の一つの良いところがわかったような気がした。

以上が、私が初めて留学した当初の様子です。今から思えば、先生も学生も、変な？日本人学生が英語らしき言語をしゃべっているのを、よく我慢して聞いてくれたものだと思います。当時は、日米貿易摩擦が最高潮に達し、反日感情も強かった時で、私は、顔を真っ赤にして一日本人の立場を一生懸命しゃべって伝えようとしていたのだと思います。

留学はいろいろな意味で大変です。お金もかかります。留学が全ての人にとって良いものであるとは、必ずしも思いません。しかし、私にとっては、留学は自分を成長させてくれたものであり、とても良い思い出として残っています。今でも、当時のこと振り返ると思わず笑いがこぼれます。もし、私のそんな経験をもう少し聞いてみたいという奇特な方がいらっしゃれば、国際学部棟632号室までおいでください。ドアは開いています。

(P2から続く)

では、「eラーニング英語」の時間割への組み込みや復習テストの実施により、どのような成果があったのでしょうか？昨年度の「eラーニング英語」履修者の学習データを分析したところ、それ以前の情報科学部生に比べ、不適切な学習（問題文をきちんと読んだり聴いたりして解答したとは思えない、通常では考えられないような異常な速度での解答）が大幅に減少しました。また、TOEICスコアの伸びにもプラスの影響が見られています。教材の問題や英語学習に関する質問メールの数も大幅に増え、これは「丁寧な学習」がなされるようになってきた証だと思われまます。昨年1年間のデータを見る限り、「eラーニング英語」は概ね期待されたような成果を挙げていると言えるでしょう。



いちだい知のトライアスロン

映画上映会 多文化共生入門共催
～大人も感動！世界のアニメーション～

毎年恒例の映画上映会を下記のとおり、予定しています。

詳しいスケジュールは追って掲示を出しますので、是非、ふるってご参加ください。

日時：6月24日（月）～6月28日（金）

場所：語学センター内

映画制作国：中国（香港）、韓国、ドイツ、

ロシア、フランス、アメリカ、イギリス

解説：6月24日（月） 13：00～ LL408

国際学研究科 イ・ダヨンさん 韓国アニメ解説

6月26日（水） 13：00～ LL404

国際学部教員 飯島典子先生 香港アニメ解説

☆先生や韓国人留学生が、文化背景を交えアニメの解説をしてくだします！留学生とも交流するチャンスです！



社内装丁 (4)

日本文化のこばによる共有財産録

高等学校用『国語Ⅰ』（昭和56～58年）

大井健地（名誉教授・芸術資料館もと館長）

日本語の文章文化財を一冊に精選して次の世代に差しだす。日本語使用者の共有財産としてその生活に生かし深め、さらにもっと豊かな人生創造をうながすのがこの文章宝典です、と。

そりゃ何だといえ、高校国語の教科書です。高校国語教科書の使命をそんなふうに僕は言言壮語しておきたいのです。

出版社在勤11年のうち3年ほどは教科書課に僕は配属されていた。社の発行は高校国語のみである。（のちに高校英語にも手を伸ばしたが）。国語といっても「国語Ⅰ」「同Ⅱ」「現代文」「国語表現」、それに「古典」数種、さらに「演習」などの関連教材もある。「国語通信」という教師向けPR誌も出していた。課員5名だった。昔は中学校用国語も刊行したが、広域採択

制で営業力に強い教科書専門出版社に太刀打ちできず早々に撤退していた。

予測がたてにくく、あてにならないもののことを水物というが、「出版は水物」とよく言われている（もうひとつ、よく言われるのが「選挙は水物」）。そのなかで当時は、教科書、辞書、百科事典、文庫が出版企業の経営安定の柱になる部門と目されていたのだった。でもそれももう昔のことというべきだろう。C社は倒産も経験した。

ところでもう時効だろうから初公開の話。信頼できる先輩から聞いたことだが江副浩正氏はC社の入社試験を受けた。が落ちた。彼を入れとけば倒産はなかったろうに、というのがその先輩の話のオチ。

教科書課の経験は僕の人生にとって得がたい財産と言える（その後に生かしきれてないけど）。課員にもまして編集委員7人の先生方は熱心だった。毎週1回夕方から深夜までの編集会議、全員で集中して、持ち寄った教材候補を吟味する。やり方は教室とかわらない、音読し静聴し、そのあと検討の議論。教科書は3年おきに改訂される。教室の授業の実際を反映し現実の生徒や時代に適合した内容に修正されるのだ。ここに一片の「編集会議だより（国語Ⅰ改訂）」がある。手書きコピー（僕の字、僕の作文だ）。1983年6月28

日の日づけ。24日開催の8回目の会議内容を記録している。部数は編集委員の先生7名と課員の計の枚数となる。以下抄録。

○幸田文「あとみよそわか」—ひところは評判も。しかし今や終わった感。

○佐多稲子—生徒の感覚に今一つ。

○野見山暁治「マビヨン通り—椎名其二」—得体の知

れない偉さ。思想を生きた、鍛えられた、しかし市井の人間。宮本常一「梶田富五郎翁を訪ねて」と対比できる。あるいは「国語Ⅱ」の岡本かの子「パリの息子へ」とさしかえるか。

○国木田独歩「画の悲しみ」—いい。古くない。高校1年にぴったり。人間信頼をよびもどす独歩の原型。

○小説单元につき会

議は芥川「羅生門」の存廃をめぐる熟考。構成だ主題だと構えた授業のためには“安心教材”だが。整いすぎ。いかにも芥川。論議の中で芥川「蜜柑」が浮上し読む。好評。忘れられてならないものがある。「羅生門」はついに外れ改訂作業の山場を越えた印象。

結果、昭和59年度からの「国語Ⅰ」収録の小説は独歩「画の悲しみ」芥川「蜜柑」葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」小川国夫「夜の水泳」井伏鱒二「黒い雨」となる。

政治学専攻の東北の大学教員だと思われる人が大学新生生に向けた文章で、世界史と倫理社会の高校教科書は捨てるな、今後も折にふれ手にせよと勧めていた。「世界史」は新聞TVのコマ切れ海外情報を歴史的に理解するために有用、「倫社」は人類が蓄積した社会科学名著のガイドとして活用できるというのだ。うん、あやかれば国語教科書もまたこれからの人生に意義がある。日本文化の言語的共有財産録、少なくともその一サンプルと称してよい。したっば編集部員の僕にもそういう抱負を持って働いたのである。

装丁はもちろん僕。自讃したい自信作（敬愛する近代イタリア美術に依拠している）。僕の関係した本で最大の12万を越える発行部数。



右の「国語Ⅱ」（昭和57～59年）は「山月記」「清光館哀史」「ころも」など収録。

アラビア語オリンピック スピーチ部門優勝！ 国際学部 西本さんに訊く、語学への想い

2013年1月26日(土)、アラブ・イスラーム学院(東京都)で開催された「第10回アラビア語オリンピック」のスピーチ部門で、見事優勝を果たした国際学部4年生の西本淳一郎さん。西本さんは、入学当初から定期的に語学雑誌を利用するなど、語学センターを大いに活用しており、語学の勉学に励んでいる姿が印象的な学生です。そうした努力の結果が、スピーチ部門で1位という快挙に至ったのだという思いで、語学センタースタッフも喜んでいました。西本さんに、これまでの語学学習の道のりやこれからの目標について、メッセージを寄せていただきましたのでお伝えします。

「道を切り開くための語学」

国際学部4年生
西本 淳一郎

「アラビア語なんか役に立たねえよな。」二年前、電車の中でアラビア語を勉強していたとき後ろの高校生に言われた言葉です。ショックでしたが、めげずに勉強を続けているといいことがあるものです。去年シリアの留学生、ズィヤードさん、ハルドゥーンさんの二人が市立大の大学院に入学したので、学内でアラビア語を話す機会ができました。以前より一層アラビア語が身近なものになって楽しんでたところアラビア語オリンピックのスピーチ部門で優勝という結果に恵まれることになりました。アッラーフアクバル (Allah is the greatest.)。

■語学の学習方法は？

現在は外国語科目のアラビア語を全て終えてしまったので独学で勉強しています。毎日ニュースを読んだり聞いたりインプット中心の学習法ですが、メールをしたり、上記の二人と話をするなどアウトプットも適宜行います。語学センターにもラジオ講座や有名なアラビア語のテキストが入っているのでしばしば利用させてもらいました。

■アラビア語オリンピック スピーチ部門優勝への道のり

アラビア語クラスの宇野先生と佐藤先生に、学習面で自立して成長出来ることを示したい、何か形に残せればと思っていたところ、今回のアラビア語競技大会のお知らせをウェブ上で見つけました。偶然ハルドゥーンさんも留学生会館の日本語スピーチ大会に挑戦する予定だったので意気投合して、原稿のチェックやスピーチ指導をしてもらえることになりました。(ハルドゥーンさんは2位に入賞しました。) この指導のおかげで当日力が発揮できて評価につなげることができました。

■今後の目標、語学への想い

現在、岩田先生の下で日本語、日本語教育を勉強しており、将来日本語教師として日本とアラブの距離を縮めたいと思っています。その際、アラビア語の知識を生かしてアラビア語母語話者が学びやすい方法を追求し、質の高い授業を展開することを目指しています。

上記の高校生の一言はごもっともで、英語でもやり取りはできますが、やはりアラビア語で話すと反応が違います。一人に話しかけると数分後、十人以上のアラブ人に囲まれることもごく普通にありましたし(全員男でしたが)、アラブ独特の歓待を受けることもあります。また国内でアラビア語話者と知り合いになることも増えてきました。ことばを学ぶとその話者への関心が高まり、そのことが互いの距離を近付けるのだと思います。これから勉強を始めるみなさん、何語でもいいと思います。単なる道具目的ではない言語学習をやってみませんか。



西本さん：スピーチ大会の様子



アラビア語オリンピック参加者集合写真
西本さん左から2人目



自習室のお知らせ 自習室の雑誌貸出冊数を変更しました！

(旧) 2冊まで

↓

(新) 学期中：3冊まで、休み期間中：5冊まで

貸出期間は、学期中は1か月間、休み期間中は授業開始日から1週間後となっています。

新年度も新たな雑誌が入っています。みなさんの語学学習に是非、役立ててください！

発行日	2013年5月31日
発行	広島市立大学語学センター 〒731-3194 広島市安佐南区大塚東3-4-1
編集	堀本真由美 伊達美和子(内線：6410)
Phone	(082) 830-1509
Fax	(082) 830-1794
E-mail	lang@intl.hiroshima-cu.ac.jp
ホームページ	http://call.lang.hiroshima-cu.ac.jp/lang/index.html